

『四国地区 大学生環境研修』

「SDGs」=持続可能な開発目標

- 主催 全国ユース環境ネットワーク事務局
(独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金)
共催 全国大学生環境活動コンテスト実行委員会
協力 環境省 四国環境パートナーシップオフィス(四国EPO)
四国地方ESD活動支援センター(四国ESDセンター)



2017年12月、四国地区で「持続可能な開発目標(SDGs)」の活動に取り組む大学生たちが香川県高松市に集まりました。持続可能な社会を作り出すことを目的としている大学生でも、その活動内容は多様で、様々な活動がSDGsとどのようにつながっているか、また、四国の大学生としてどのようにSDGsと関わられるかを、社会人からの講演や学生同士での意見交換を通じて理解を深めました。当日の様様をレポートします。

基調講演

『トンネルコンポスト方式 ～可燃ごみの再資源化とSDGs～』

鎌倉 秀行 株式会社エコマスター
BTマスター(センター長)

株式会社エコマスターは、香川県三豊市にある「バイオマス資源化センターみとよ」の運営をしており、そこで「トンネルコンポスト」というごみ処理方法を、日本で初めて実施しています。トンネルコンポストは本来であれば燃やすだけの生ごみや草木、ビニールなどの可燃ごみを、微生物を用いて発酵乾燥させて固形燃料に加工することで再資源化する手法であり、生産された固形燃料は石炭の代替品として利用されています。この取組は資源の有効利用につながるだけでなく、二酸化炭素の排出の削減にも大きく貢献しています。この二酸化炭素の排出抑制の取組が評価され、環境省からも2カ年に渡り施設整備に関する補助をいただくことができました。廃棄物処理はSDGsの17のゴールとも密接な関係にあり、12.2、12.5のターゲットの中にも「循環型社会の構築」について触れられています。トンネルコンポストによる固形燃料生産事業も、限りある資源の有効活用、石炭に代わる燃料の製造、二酸化炭素排出抑制など、SDGsの17のゴールに大きく関わる取組です。環境に与える負荷を軽減し、持続可能な未来を構築すべく、この取組を続けたいと思います。



事例紹介

『SDGsの内容および、四国における取組事例紹介』

亀山 公実子 環境省四国環境パートナーシップオフィス(四国EPO)
コーディネーター

SDGsは国連で採択された世界的な目標ですが、私達の先の世代も安心して暮らしていくための「持続可能な社会づくり」を地域で実現するための目標でもあり、企業や行政、学校、NPO、様々な人が、様々な場所で持続可能な社会づくりにつながる取組を実施しています。四国でも、地域特産の規格外農作物を材料としたお菓子を製造・販売する企業や安心で安全なオーガニックコットンのタオル生地をグリーン電力のみで製造している企業、安全で新鮮な農作物を消費者に提供しているスーパーなど、多様な手法で、持続可能な社会の実現に向けた取組を実施しています。企業以外でも様々なところで取り組まれており、新たなものばかりではなく、既存の取組に「持続可能性」という観点を加えることで、別分野への展開や新たなパートナーとの協働などへと発展することもあります。SDGsの17の目標は一つ一つ独立していても見えますが、複数の項目は相互的な関係にあります。また、企業をはじめ、消費者である私たちの普段の生活や行動も、持続可能な社会づくりにつながっているため、SDGsは世界共通の重要なキーワードとなりつつあります。

